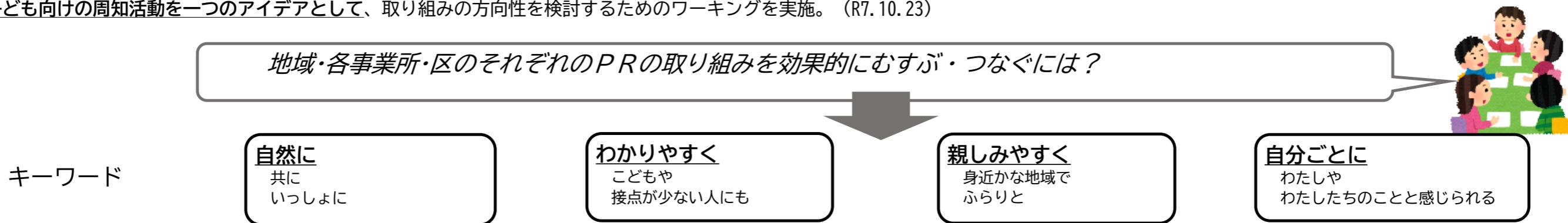


◎ 共生社会PRワーキング まとめ

資料4

障がいの理解 や 共生社会 に関する啓発・PRについて、
子ども向けの周知活動を一つのアイデアとして、取り組みの方向性を検討するためのワーキングを実施。（R7.10.23）



※ ワーキングでの共有内容（事例やアイデア・意見）を1～4の視点で整理

	アイデア・事例	1 効果・波及性・PR ① 地域課題解決への効果 ② 共生社会のPR効果、 ③ 他地域への展開可能性、話題性・広報性	2 着手のしやすさ ① 準備期間・調整の難易度 ② 小規模試行の可否・短期的な実現性	3 実現可能性・予算 ① 制度・法・地域資源との整合性 ② 必要経費の妥当性・予算対応	4 作業負荷・持続性 ① 関係者の負担度合い、 ② 繼続に必要な人員・時間、安定性 ③ リスク管理
SNSの配信 ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> "障がい者への心づかいシリーズ" 医療、飲食店や小売業など区民に身近な業種毎の発信。 デブリビックの東京開催。 ⇒ 手話について SNS、ビューポートテレビ、ライトアップ 各所バラバラで行っているものをキャンペーンテーマを統一し連動させてはどうか？ 現場の当事者の「生の声」等、一緒に作る体制はどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> SNSは、受動的な情報。 ホームページにはたどりつきにくい。 ただ発信するだけでは効果薄い。 テーマの統一で目に留まりやすくなる等の工夫が必要。 職員目線ではない具体的な事例。 "生の声"でアクセス数、広報効果UP。 	<ul style="list-style-type: none"> リーフレット等印刷と比べると着手しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 印刷、紙等の費用がかからない。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的なメンテナンスが必要。 取り組みを連動させるには、各機関の協力体制と組織化が鍵。 各取り組みのリンクで、過度な負担をかけず効果倍増の可能性。
リーフレット等 作成	<ul style="list-style-type: none"> はたらく部会の取り組み。 ⇒ 企業向け障がい者雇用のPR。 公益活動げんき応援事業助成金の活用。 リーフ作成・DM郵送・セミナー。 実例に基づくポジティブな情報発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容等の工夫により話題性UP。 QRコード掲載でHPと連動できる。 民間による作成 ⇒ 内容の自由度が比較的高い。 区が作成 ⇒ 区の窓口や各機関で配布可能。 いろいろリーフがある中でどんな内容が必要で効果があるか吟味が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 助成金は、任意団体等の地域の小さな単位で活用できるものも。 区が作成、印刷する場合は一定の準備期間は必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 助成金等の活用可能性。 区が作成、印刷する際も予算確保は必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 助成金の受給後の報告が必要。 一度、印刷されたものは、その後の変更や追加等がしにくい。
実体験型 イベント	<ul style="list-style-type: none"> 「ここでの健康フェスティバル」 中高生の吹奏楽やダンス、模擬店やゲーム等交流。 「地域交流展示会」 立ち寄る人の相談。 イベント内での当事者との交流や体験を。 ブースの例（車椅子・ゲーム） 心理チェックを入れると自分ごととして興味を引きやすい。 障がい者週間に図書館の企画特設コーナー "読み聞かせ"など日常的なイベントの展開は？ 中高生には障がい施設の実習も理解促進につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容等の工夫による。 例) 子育て世代をターゲットにした、"絵本の読み語り" 区内の子育てサロン等の他、大型商業施設などで開催すれば話題性あり。 	<ul style="list-style-type: none"> すでに実施しているもののアレンジならば比較的実施しやすい。 日常的なイベントやPRに親和性の高いグループ等にアプローチすることで小さくはじめて大きくしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> すでに実施しているもののアレンジならば比較的コスト低い。 人的な投入は必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と人が触れ合うイベント。 ⇒ 丁寧なフォローアップや、内容のふりかえり、見直しが継続的に必要。